

序

小野小町は謎である。日本史において、これだけ様々な伝説が語られる一方、実態がわからない人物は、聖徳太子を除いては、小町しかない。文学部を定年退職まじかとなった菅原は、自分の最後の仕事として、小野小町を、学生達と調べてみようと思った。そこから浮かび上がってきた仮説は、以下のようなものである。小町は、小野篁の妹であり、『源氏物語』の桐壺の更衣のモデルである。そして光源氏のモデル源融の母である。小町は悲劇のヒロインであり、早世であった。小町には娘がいて、母の早世を隠すため「裏の小町」となった。

目 次

序	1
第1章 プロジェクト小野小町	7
1・1 立ち上げ	9
1・2 第一回	11
第2章 小野氏と小町関連人物	13
2・1 小野氏について	15
2・2 小野篁（八〇二―八五三）	27
2・3 源融（八二二―八九五）	65
第3章 『小町集』について	87
3・1 小町の娘という仮説	89

3・2	表の小町の真作	97
3・3	裏の小町の真作	101
3・4	謎の代表作	113
3・5	小町の雨乞い説話	115
3・6	『小町集』と陸奥の小町	117
3・7	一休みの飲み会	122

第4章

小町の周辺の人々

4・1	小野岑守 みねもり (七七八―八三〇)	129
4・2	嵯峨天皇 (七八六―八四二、在位八〇九―八二三)	131
4・3	仁明天皇 にんみょう (八一〇―八五〇、在位八三三―八五〇)	132
4・4	遍昭 へんじょう (良岑宗貞) (八一六―八九〇)	135
4・5	在原業平 (八二五―八八〇)	143
4・6	政界の有力者	146

第5章

『百人一首』における小野氏と小町

5・1	小野氏関連	155
5・2	小町関連	160

第6章

『源氏物語』再考

6・1	桐壺の更衣のモデル	169
6・2	人物設定と時代設定	172
6・3	光と影	174

第7章

『伊勢物語』

7・1	初冠 ういこうがり 第一段	179
7・2	業平と若き日の二条の後	181
7・3	業平と二条の後のその後 六五段	182
7・4	業平の非常識 七九段	183
7・5	業平の歌の心得 一〇一段	185

7・6	小町関連かもしれない歌 二五段	188
7・7	作者は文屋康秀か 九五段	190

第8章	百夜通い	193
-----	------	-----

8・1	通小町	195
-----	-----	-----

8・2	卒塔婆小町	196
-----	-------	-----

第9章	最終回	199
-----	-----	-----

登場人物	207
------	-----

参考文献	214
------	-----

謝辞	215
----	-----

第1章 プロジェクト小野小町



1・1 立ち上げ

四月、菅原研の新生歓迎の飲み会があった。メンバーは、大学院生の大伴と千葉の二名、そして新四年生の猪俣、松浦、三宅の三名である。お酒が回ったところで、自己紹介が始まる。

菅原「まずは博士課程の大伴君から始めて、修士課程の千葉さん、そして四年生の皆さんの順で、簡単に自己紹介をしてもらい、最後に僕が話すことにしよう」

大伴「D1の大伴隼人といいます。専門は『万葉集』で、七世紀から八世紀の初め、柿本人麻呂や山上憶良を中心に研究しています」

千葉「M2の千葉幸子です。歌枕に関心を持っています。最近特に気になっているのは『小倉百人一首』です」

猪俣「四年生の猪俣政信です。歴史学にするか国語学にするか迷ったのですが、国語学を学んだ上で日本史をやるという可能性もあると思って、菅原研を選びました」

菅原「なかなか頼もしいね」

松浦「同じく四年生の松浦朋子です。私は和歌が好きで、和歌について新しいことをやっ

てみたいと思っています」

菅原「それは私が今年やろうとしていることにあつてる」

三宅「四年生、三宅宏明です。和歌と時代背景の関連のようなことを研究してみたいと考えています」

菅原「素晴らしい。今年の四年生は有望だ。じゃあ私が今年の四年生の卒業研究のテーマを話そう。まず私の名前は、菅原永尚^{ながなお}。あと三年で引退する。焦って論文を書く必要もないから、何か大きいことを一つ最後にやりたいと思っている。私が永年気になってはいたが、手をつけていなかった大問題は、「小野小町」だ。これほど説話が多く残されているのに、その生涯の真相がまったくわからない人物は、聖徳太子を除けば日本史には見られない。大学院生を含めて、研究者が正面切って取り組むにはリスクが大きすぎるかもしれないが、引退間近の私と学部四年生には、失うものはない。四年生一人一人が細分化された個別のテーマに取り組むよりも、共同研究として大問題に取り組む方が面白いだろう。どうだいやってみないか」

四年生達「面白そうですね。やりましょう」

菅原「大学院生もアドバイザーになってもらっていいんだけど」

大伴「面白そうな副業ですね」

千葉「私、小町の歌のファンなので、ぜひ入れてください」

菅原「じゃあ決まった。「プロジェクト小野小町」の立ち上げだ」

1・2 第一回

週一回集まって、与えられたテーマについて三人の学部生が交代で発表することになった。テーマと最低限の参考文献は菅原が与え、さらに大伴と千葉が助言を加える。発表内容は発表者が自由に拡大して良い。

菅原「最初は「小野氏」について調べてもらおうか。学部生の諸君は小野氏について何を知っている？ ただし、小町を除いて」

猪俣「誰でも知っているのは、小野妹子。聖徳太子の時代の遣隋使。それから冥官^{みょうかん}小野篁^{おののかむろ}。仁明朝の時代に、検察関連の職を歴任する一方、あの世とこの世を往き来して閻魔大王に仕えたという」

松浦「小野老^{おゆ}は、遠く太宰府から、

あおによし ならのみやこは さくはなの におうがごとく いまさかりなり
の歌を詠んだ」

三宅「篁の孫の小野道風は能書家で、和風の様式を確立した」